

1977ねん 3月号

No13

あんふあんて

発行人／ 発行所／あんふあんて出版部

お花畑をつくりましょ

お花畑をつくりましょ
あなたのお家に咲いている
あなたのお花を持ってきて
あふれる水をかけてやり
あふれる外気と日光で
身ぶるいさせてやりましょ

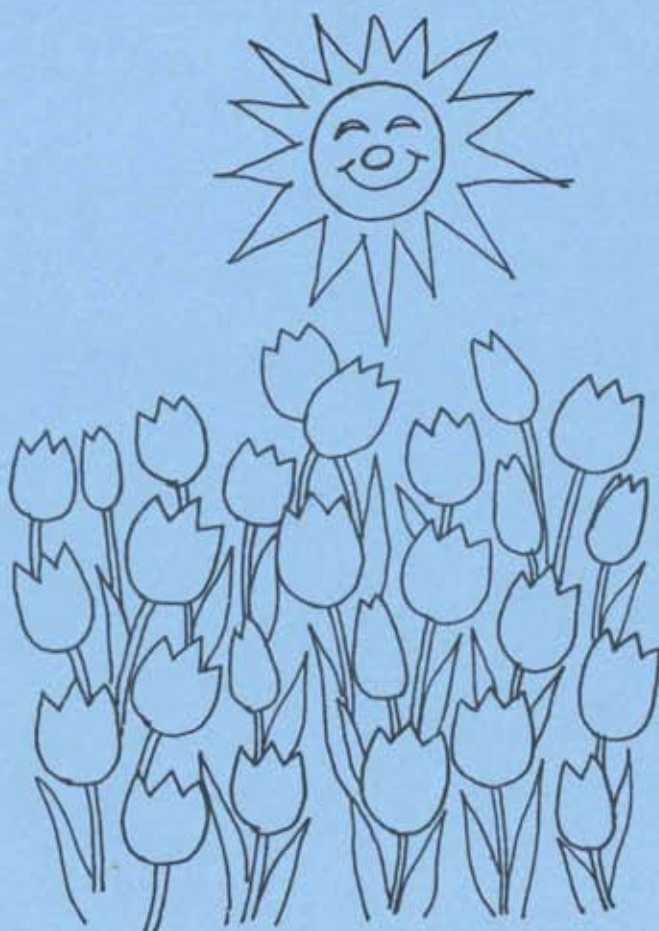
あなたの花は何処にある
鏡をのぞいてみて下さい
ほうら輝く大輪が
少々つかれて立ってます

出産・育児という肥料
あなたの光が見たいのよ
私の花も見せたいの
出産・育児という肥料
ともにぐるぐるかきまぜて
うんと熟した肥料にしょう

あなたの花も大きく咲かせ
私の花も大きく咲かせ
咲くほどに水は満ちみち
咲くほどに太陽は輝く
そんなお花畑をつくりましょ

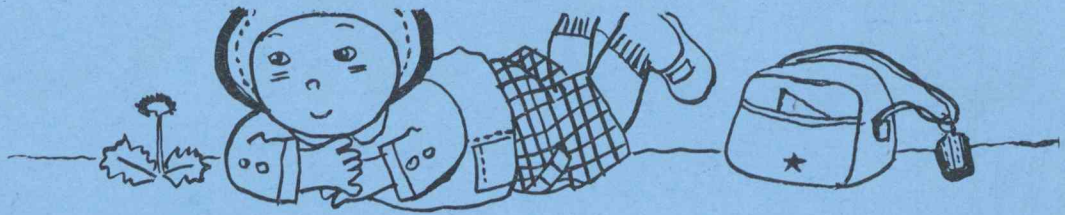
詩・神田

イラスト・天郷



あんふあんの目

「ただダラダラと」と「いい保育を」



各グループからの報告や交流会での話からも、こんな声が聞かれます。ただ、ダラダラと集まっては散っていき、それで共同保育と言えるのだろうか。又、0・1歳児と3・4歳児がいっしょで、いい保育ができるだろうかと。共同保育やヘルパー制をしばらく続けていて、この2つに代表される保育のなかみへの問いかけが生じるのは自然と言えるでしょう。この問いかけには多くの問題が含まれています。

前者の場合、「ダラダラ」というのが、何をさすのかがあります。これは、子どもたちの遊びそのものよりむしろ、そう感じるおとな自身が緊張感を失なっているということと、少し慣れた頃特に感じるようです。

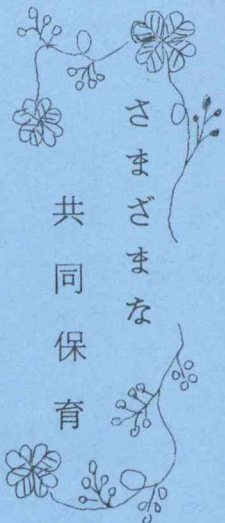
又、「特に何もやっていない保育」に対しての不安感もあるようです。何をやってもよい、又は何もやらなくてもよいという束縛のなさ、自由さよりも、これこれをやった方がよい、又はやらない方がよいという指針めいたものをついて求めています。ベンクラブの2つの自由の論議ではないけれど、本来が規則や束縛のある中で自由ではなく、対象物も何もないところからの自由、いわば人間としての自由を求めているはずなのに、私たちはいつのまにか、イメージを広げられなくなってしまうのです。けれど、自由遊びをしている当の子どもたちは、自由にワクするものは何もなく、本当にイキイキと自由なのです。私たちがおとなのレベルで判断してしまうのは危険です。「特に何もやらない保育」はつまりは、「何をやってもよい保育」で、子どもの自由さ・可能性を最大限に

活かしていると言えるのではないのでしょうか。もちろん最低の安全の確保だけはなされなければなりません。

後者の場合、まず「いい保育」のとりえ方が問題になってきます。年令に合った発達をのばすようなものを「いい」と考える人が多いようです。そのために、発達などについて学んだり、体系的カリキュラムみたいなものを求めたりすることも出てきます。その自分たちの手づくりでやるとしても、一般的に専門的知識と言われるものをうのみにしてしまっているのでしょうか。例えば、「女はこうだ」とかの言われ方を私たちはとてもイヤだと思う時、「3歳児はこうだ」の言い方をしています。いろいろな女がいると言いたい私たちは、いろいろな3歳児がいることを頭に置かなければならないし、その時、最大の障害物が「女はこうだ」の固定化された概念だということを痛感しているはず。3歳児はこうだ」という概念や専門的知識に頼ることなく、自分たちの目で見、感じる目の前のA君はどうだ」という討論から出発できないものでしょうか。

同様に、幼稚園のことは幼稚園に、小学校のことは小学校に、もちはもち屋に式でいくと、家事育児は主婦に、女の子は女の子らしく、と返ってくることを忘れてはならないと思います。高度に専門職化、分業化されてしまっている世の中でも、私たちは人間らしい生活を求め、人間らしい子育てをとりもどしたいと願ひ、あんふあんでしているのです。「何が共同か」をいっしょに考えながら、模策しつづけていきましょう。

(古知)



共同保育

情報誌10号の呼びかけに応じてグループ報告が12通寄せられました。いくつか共同保育の問題点を拾ってみました。

▽川崎グループ

一時、活発だった共同保育が中止されています。あくまでも休止状態ですが再び始めていくのにはいろいろな問題があるようです。その問題点を拾ってみると、

(1)場所の問題 公共(高津市民館・多摩市民館)を使っていたが制限が多く、料金がかりすぎた。戸外で遊ぶ事が出来ず年令の大きな子は活発に動けない。
(2)距離の問題 会員が広範囲すぎ市民館に来るのに、月に2度でも負担がかかりすぎた。
(3)回数が少なすぎた その為、親も子も親しむ事が出来ずコミュニケーションがうまくとれなかった。

(4)メンバー3・4人がつぎつぎに妊娠し、共同保育に参加出来なくなった。

(5)預ける人預かる人のバランスがとれず、預かる方が多くなる人が出て、一人の人にしわ寄せがいってしまっただ。

これらの反省から、活発な行動をしていく為の場所確保に事務所づくりという事をいろいろ検討しています。又、新会員をふやして

地域的に近い3グループ各々でやっていけるようにするのが一番よいと、新しい方向を目ざしています。

▽東横線グループ

親子とも親しくなりたいと考えている人とヘルパー制を利用して自己の自由時間を充実させたいという人がいて、おそろおそろ共同保育をはじめたグループです。

(1)始めは公園に集まり一緒に遊ばせるという屋外保育を考えたが、雨や風ですぐ中止になるし、参加者も少なく乳児には無理という事でうまくいかなかった。

(2)現在は各家庭持廻りでAM10時からPM2時まで、大人10人・子供15人が、お弁当持参で集まっている。週一回なので少ないという声もあるが、今のところこれが精一杯。只子ども達にしたらもっと、ひんぱんに行なう方がより連続した、気持ちで遊べるのではないかと思っている。

(3)大きな子がダイナミックに遊べる環境・より魅力的な保育内容などを求めて内容の充実を図ろうとしている。横浜市の無認可保育所で働く人達のやっている保育問題研究会の保育講座などをうけて勉強を始めた会員がいる。

このグループでは、なるべく自然環境の豊かなところで、のびのびさせたいという考えのもとで、大人達が工夫して遊びをふくらませています。

▽どんぐりグループ(渋谷)

渋谷グループは20数名という人数で地域も広くなかなか会合など持つ事が出来ず、51年2

月頃に3歳児を中心とするメンバーのみ集まり、どんぐりグループとしてスタートしました。幼稚園に行っている子も多く時間の関係などで共同保育は月一回しかおこなえません。この問題点として

(1)一人一人の個性の違いをどうとらえるか遊ばせ方として、一斉に同じ事をさせるか、ばらばらでもよいのか?好き嫌いとか食欲の大小をどうするか?

(2)共同保育の場所として、メンバー宅を持ち回りしているが、中で、速かったり雨の場合はやめるといふ場合があった。

(3)時間が短く、フリーになった人の活動が不十分で、子どもも慣れた頃お別れということになってしまふ。

いろんな問題を解決していくのに、各自が子どもを育てていく基本姿勢を確認し、お互いが当番になった時は自分の子どもを育てるつもりで自信をもっていこうと、話し合うことからはじめました。幼稚園から帰る子がどうしても時間に間に合わないという事も時間を延ばしたりして、ただ預けっことは終らない共同保育の持つ意味をお互い確かめあっています。

そして、横須賀グループの一会員は、女の問題を考える時、どうしても考えざるを得ない女の家事・育児天職論を変えていく方法として男も女も参加する共同保育を創っていきたいと書いてきました。

とめどなく並べたさまざまな問題点が、明日から始める、そして今やり続けているあなたの共同保育への一つの展望になることと思います。(矢郷)

混乱する幼児教育



私たちは今

どうしたらいいのか？

ミズ・スクールのお知らせ

日時 3月30日(水)

PM 1時半～4時

場所 千駄ヶ谷区民会館ホール

国電原宿駅坂下口下車徒歩5分

参加費 500円

※ 矢野壽男氏 著書「幼稚園が子どもを

ダメにする」他。

予定・山崎朋子氏 著書「日本の幼稚園」他

(仕事の都合で、確実ではありません)

☆託児 託児料 一名100円

申し込み35名まで、事務局へ電話で申し込みの事、おり返し託児カードを送ります。

又、当日の託児係を募っています。グループなどでは相互に協力し合いながら託児係を出してみてください。参加者は3月23日(水)までに必ず事務局まで連絡のこと。

歴史の流れはどうだったか？

△明治編▽

江戸時代は良し悪しは別として、武士階級では乳母保育、農漁民たちは村落的共同保育という形で行なわれ、それは古いなりに安定していた。ところが、明治維新による急激な近代化は、あちこちで不自然な現象を起こしていたが、幼児教育にもその波はかぶってきた。明治9年、日本で最初の幼稚園「お茶の水女子大付属幼稚園」は政府によって創られたが、富国強兵策に代表される明治政府の外国への虚勢ぶりは、保母の養成や人材の確保内容の研究、最も大切な国民の理解などをついていかなかった。フレイベル(アメリカ、ドイツなどの幼児教育の中心人物)の考え方を曲解し、形式主義的、官僚的、外国かぶれの域を出なかった。歌や遊戯・説話なども外国の訳の文語体で、日本古来の昔話、わらべ唄ではなく、イソップなどであり、直接的に影響される子どもたちにとって、不幸ではなかったか。それでも、通うほとんどが華族や高級官僚などの子どもたちで、通えるだけましであり、世の中の多くの子どもたちは、おとなたちの経済的、風俗的混乱の中、放ったらかしだった。

△大正編▽

大正時代は、デモクラシーの波が子どもたちにも寄せ、童話雑誌「赤い鳥」などの児童文化運動も起こり、形式にとらわれない遊びや自然のふれ合いを大事にする自由主義の保育も行なわれ始めた。又、今まで小学校令の

一部に含まれていたが、「幼稚園令」として初めて独立した規定も持った。働く女性も増加し、紡績工場に託児所が設けられ、公立の託児所もつくられるに至った。

△昭和編▽

その波も束の間。昭和になると世界的大恐慌、侵略戦争、第二次世界大戦と突入していく。長い戦争の嵐の中で、政府は「産めよ、殖やせよ」と言いながら、生まれた子どもたちの保育の対策など何もせず、ついには逆に幼稚園を閉鎖してしまった。これらのしわ寄せをすべて戦後の母たちはけなげにも受けて立ってきた。

△支え合うこと▽

明治・大正・昭和のいつの時代でも、どこかではがんばり続けている人たちの努力は大変なものだ。そしてそれらの人たちを支えうる多くの人たちの理解がなくては続かない。現在も私達「あんふぁんて」も含めてたくさん試みや方法が行なわれている。積極的に、又は、消極的に理解し支えるという立場だけでも関わって欲しい。(大山・古知)



どんな風に混乱してきたか？

△法律と私たち▽

法律・制度・政治などと言うと、およそ縁遠いという感覚をもってしまうだろう。私自身もそう思っていた。しかし、少し調べていくうちに、子どもたちの現状をつくりあげているのが、それらの要素であり、すぐに飛び込んでくる子どもたちの大変さの下のアミの目のしくみを見透して、毎日の育児なり、共同保育をやれば、大部ちがうんじゃなかるうかと思った。

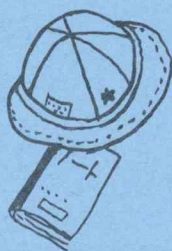
△憲法と幼稚園・保育所▽

幼稚園と保育所のちがいは、管轄が文部省か厚生省のちがいにいることは御存知だろう。行政が異なるということは、法律が異なるということだ。というのも行政は法的背景によって実務化しているにすぎず、予算も法的背景によって組み使えるだけだ。ではその背景となる法律は何か。幼稚園は学校教育法であり、第77条「幼稚園は幼児を保育し、適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とする」となっている。保育所は児童福祉法であり、第39条「保育所は日々保護者の委託を受けて、保育に欠けるその乳児又は幼児を保育することを目的とする」となっている。学校教育法は、その又背景に教育基本法があり、その又背景には御存知、日本国憲法がくるのだ。児童福祉法も、背景は憲法だ。しかし、憲法の中でも、どの部分かというところが異なっているのだ。専門家でない私がわかるのは、教育基本法が第26条「教育を受ける権利……」の部分だろうということ。

児童福祉法が第25条「最低限度の生活を営む権利……」あたりかなあということ。子どものちょっとしたことも憲法までいくのかと驚いた。逆に、私たちのやりたいこと、要求したいことを法律や政令、規則などのつとて理論づければ、国でも地方行政でも可能なのだなと、うれしい発見をした。

△児童憲章を宣言▽

いづれも、昭和22年、憲法と同時にできている。そして、もっと細かい具体的なきことを決めてある、幼稚園施行規則・幼稚園施設設置基準・保育所施設設置基準・保育要領（これは何と、幼稚園の保育内容のこと）などが次々とできた。これで一応の形は整い、スタートはしたのだが、敗戦の子どもたちへの影は浮浪児などばかりではなくとにかくすさまじかった。そこで世の中の関心を喚起させるため昭和26年、児童憲章を宣言した。さらに経て、昭和34年、国連の児童権利宣言にも参加した。しかし、これらは単なるアピールにしかすぎず、これらを受けて具体的施策を行なうのは当然と思うが、何ら実施されていない。



△人づくりブームの頃▽

しばらくして、昭和38年の頃、急にいろいろな動きがあった。その政治的背景には、池田首相提案の「人づくり」とか「期待される人間像」がある。もうそろそろ私たちの記憶

の範疇になってきたようだ。中教審（中央教育審議会、文部省下の諮問機関、専門家有識者によって構成）の教育課程改正についての答申によって、幼稚園も又、幼稚園教育要領をつくったり、幼稚園振興計画を行なうことになる。私などの年代は、もろにその影響を受け、教科書の内容なども変わったことを覚えてる。さらに、珍らしいことに昭和39年には文部省と厚生省の共同通知という形で、「幼稚園と保育所の関係について」というのが伝えられ、5歳児については保育所の措置（入園）基準を厳密にし、なるべく幼稚園になどということが述べられている。しかし、これも、かけ声のみで、具体的施策は全くゼロ。幼稚園教育要領の影響もあってか、保育所の方も中児審（中央児童福祉審議会）から、保育所保育指針というのが出され、幼稚園、保育所ともに、保育内容に関しては、多少充実してきたと言える。

△幼・保一元化の波▽

もう1つの大きな波は、昭和46年の中教審の答申だ。4・5歳児から小学1・2年までを1区切りとした幼児学校、5歳児の幼稚園希望者全員就園、保育所においての幼稚園に準ずる教育、……これらは大きな波紋を巻き起した。小学校の学令引き下げとか、4歳まで保育所へ行っていた子ども5歳になると幼稚園へという誤解した地方自治体とか、まだ試みの段階なのに、幼稚園と小学校の有機的つながりとは、今の小学1年のやる文学・数を教えこむことだと先取るとか、子どもが早熟化と言えば早期能力開発だと返る。数々のように流行るおけいこや教室とか、波紋は広

がるのみである。收拾する次なる具体案が出ていないからなおさらである。私立保育連盟、私立幼稚園連盟さえも混乱した。一般の母親ももっと動揺したし、いまだにしているのだ。幼・保（幼稚園・保育所）一元化、又幼稚園義務制度化は、それ以前からも言われてきたが、この中教審の答申をさすことが多い。

△つい最近▽

昭和50年11月、文部省と厚生省に向けての行政管理庁の行政監察に基づく勧告が行なわれた。全体的に言うとうち・保の混乱を両省が協力して改善せよということである。これ自体は当然と思うが、個々の細かい指摘は実情を把握しているとは言いがたく、それを受けての厚生省の回答が、例えば入所措置基準を厳しくするなどもあり、逆利用された感じもある。文部省の回答の中には、無認可幼稚園、いわゆる幼児教室のことにも触れられており、今後の施策を待つしかない。

△お金のこと▽

私たちの生活の中で大きな問題として、保育料のことがある。東京都の各区では52年1月から値上がつたばかりであるが、最高の人で5倍位の2万5千円である。今までは、各地方自治体の弾力徴収という形だったので、何とか超過負担として賄なっていたが、地方財政の悪化などから、受益者負担原則が言われるようになった。又、これに加えて、人件費の上昇分だけ、自動的に保育料も上がるリンク制というものになった。幼稚園の方は、何といっても公立と私立の費用の格差が大きいことが問題だ。昭和46年中教審答申に基づいた翌47年からの幼稚園振興計画の予算化の

中で、私立幼稚園の保護者負担軽減のための要求が通らず、代わりに幼稚園就園奨励費として、一定所得以下の場合、年間1万円もしくは5千円を補助するというものになった。これがいかに少ないかは、入園の際7〜8万円、月額1万円というアンケートからの数字と比してわかるだろう。

聞きなれないことが多かったと思うけど、「食わず嫌い」にならずに、ことばなんか乗り超えてしまいませんか（小沢・古知）



子ども達は実際こんな中にいる

△多様化▽

①教育の現代化（たとえばカラーテレビ・テレビレコーダーの普及などにより、子どもの発育の速度が早くなっているのではないかと（いう論）によって、幼稚園教育の教育要領に対する解釈・了解の仕方が多様化している。漢字・英語を教えるところがあれば、オペレッタ・オルガンを教えるところというように園での教育内容がさまざまになってきた。特にこの傾向は、経営とのかねあいに、強く園の特色を出すことで私立に多い。模索中とは言え、はたしてこれらの試みが、子どもにとってどうなのか。充分に考えられているのだろうか？

就園率（小学校一年生の幼稚園卒業者が占める割合）が全国平均60%、東京都では72%の

普及率で、そのうえに小学校教育のカリキュラムの過密さといえ、文字・数などの基本は幼稚園段階で修得されるべきだと、暗黙の了解がある。幼稚園さえも小学校の準備機関とされ、ひいては先の先の大学受験へとつながる第一段階になってしまっている。

△あまりにも人数が多すぎる▽

②子ども達に集団をと、一口に言ってしまうが、その集団の質と量とが問われるべきだ。前述、学校教育法・幼稚園設置基準によれば先生一名につき子ども40名以下の受持ちとされている。しかも3歳からの基準である。それと比べて、保育所では3歳児25名、4歳児以上30名という受持ち基準となっている。量の問題が必ずしも質の問題にはならないがどうみても、一人一人手をかけ、目がいきとどいていような状態とはおもわれない。クラス運営をスムーズに進める為に先生は子どもに「よい子」であることを潜在的に求めてしまっているのもやむをえない現状だ。さらに文部省の幼稚園進行計画によって4クラス以上でない、補助金がもらえないという事があり、こんなことが園そのもののマンモス化に拍車をかけている。

施設などは基準にそった大きさをもっているても、子どもの年令にあった行動範囲から考えていくと絶対的に狭い。公立の場合にしても小学校と併設のケースが多く運動場などは共用の形がとられ、おもしろいには使えない。同じく、子供に適したという点から、一クラス40名、全体で200〜1000名という大集団が集団として適当といえるのだろうか？

△先生をとりまく状況▽

③ 集団の質を形成している先生方をとりまく状況はどうなのか？ 考えてみる必要がある。園数で60%を占め、園児数で75%を占めている私立では、先生そのものが経営者の利潤追求の材料となってしまうのではないだろうか？。圧倒的に女性が多い職場ということで、労働組合なども組織されず職場改善がされないまま職場環境が悪いということも退職していく先生も多い。一クラス、一名の受持ちということで病気や事故などで休むこともままならず待遇は公・私立とも決してよいとはいえない。

(古知・矢郷)



親たちの声から

幼稚園・保育園の実態を調査するにあたり48年3月以前に生まれた子どもを持つ会員172名にアンケートを配布しました。そのうち52通が返送され内訳は次の通りです。

④ 幼稚園 37名(私立36・公立1)

※今春入園予定者7名を含む

⑤ 保育園 8名(私立6・公立1・無認可1)

⑥ 幼児教室3名(すでに入っている2・予定1)

⑦ 現在保育園(私立)で今春幼稚園(公立)

に移る予定が1名
現在幼稚園(私立)で今春保育園(私立)に移る予定が1名

⑧ どちらにも通っていない2名

△園に入る前▽

では、何故幼稚園を必要としたか、という問に対して

- ① 集団の中に入れたかった
- ② 子どもに友だちが欲しかった
- ③ 子どもに社会性・協調性を

などの答が圧倒的でした。

次に園を選ぶ基準やその園に何故したのですかとの問には、園児の母親に聞いてみたり直接園を見学に行ったのち、一番近く通園しやすいところ又、見学に行つて感じのよかったことや園の方針などで選んでいます。

閉鎖的な毎日の中で、子どもの遊び場やたまり場を親が探して与えているのが当然となってきました。アンケートからでもわかるように集団の中に入れたかった、しかしそれを既成の幼稚園にたよらなければならぬのが現状です。そして幼稚園そのものの個性が多様化してきた中で親としてどの幼稚園がよいのか判断に迷い探してみますが、結局は子供中心に考えていくと距離や通園時間が一番のポイントとなっているようです。

△入園の際▽

公立の幼稚園が少なく、私立入園となると平均4〜5万円の入園金、平均一万円の月謝、その他制服なども統一され、雑費などのこまごまとしたお金もバカにならず、合計で7〜8万円にもなります。

何故こんなにお金がかかるのか？そしてこのお金で私達は何を買おうとしているのでしょうか。子どもによい環境、よい集団をとの気持ちがお金に変わっていく現状を考えないではいられません。

幼稚園の入園の際の集団テスト・面接方法にも疑問が残ると書いたアンケートが多くありました。「子どもはほんのわずかな時間に初対面の人がわかるものではないし、知能もわずかの知識をみただけで判断できないから、やめた方がよい」との言葉が示すところ入り園テストは無意味、と批判の意見が多くかれます。

△入園してから▽

実際、入園させてみてからの問題として親がどのくらい幼稚園の実体を知っているでしょうか？ 送り迎えだけでしか、幼稚園と接する時間のない親にとって連絡ノートなどは毎日の生活を知る一番の手掛りでしょうが、ほとんど出欠席のみの記録や事務的連絡事項のみにとどまり熱心に様子を伝えてくる園や先生の意見が書いてあるのは少ないのです。その他の印刷物でも行事の連絡、保育カリキュラムにとどまり、個人・個人の子どもたちの成長や日常の事を知らせる手がかりはここにもありません。先生との話し合いの場としてのクラス懇談会や個人面接は、ほとんどの園で行ってませんが形式的なものが多くホンネを出し合うことができません。親同士のつながりとしての父母会は組織されていますが、園の方針や経営内容など立ちいった話はタブーとされ顔合せて終わっています。なかにはこの父母会さえ組織されていない園もあります。

親が本当に知りたいのは子供の園での日常の様子・成長過程であり、先生は家庭における子供の様子・親との関係です。相互のコミュニケーションが深められ、広がりを持った時はじめて子供はのびのび成長出来るのです。幼稚園の入園の下調べは熱心ですが、入ってしまえばすべてが園まかせ先生との話し合いもなされないまま終ってしまうのはなぜでしょう？ 日常でのコミュニケーションが欠けても、運動会、遠足と親子そろっての楽しい行事が多く、こんな形になる行事で幼稚園や先生への評価を決めてしまっているのではないのでしょうか？

（渡部・矢野）
 だんだん子どもが大きくなってきた
 ちよつとあせる日もあるあなたへ

今まで読んできたように、そしてここでも話題になっているように、今の子どもたちをとりまく教育（？）環境はますます苛酷な状況にあるといえます。公・私立保育園で、幼稚園で、共同保育の集まりで、公園の陽だまりで、私たちの話題はつい子供の○○の話題になってしまします。入園の前に、入園してしまってから、たとえばピアノのお稽古、英語スクール・○○教室に申し込みに行く前に、ちよつと立ち停まって考えてみませんか。

「子供のためによかれと思って」という言葉に、どんなに親のエゴがあることでしょうか。その言葉でどんなに多くのものを子供たちに押しつけているか、その結果、「いい子」が大量生産され、「怒らない世代」としてどこかで何かに利用されていくかもしれないことを、私たちはもう一度考える必要があると思います。「個性の尊重」というステキな言葉は

実際は選別のための「早期能力開発」になり下がっている面もあるのではないのでしょうか。実際に私たちの要望を完全に満たす形がない以上、既成の組織（園等）でしつこく改善の道を捜すか、私たちの手でできる保育の道を捜すか、どうやら2つに1つなかなと思っしてみたりもするのです。保護さんや先生たちは「ハロウ・トゥ」の私たちが口出しするのを好まないかもしれませんが、皆がそう思っている限り、子供をとりまく状況は加速度的に選別に近づいていくしかないので、気長に言ってみることが必要ではないでしょうか。「うちはまだ小さいから」とか「うちの園は別に」とか言ってしまうようなあなた、そう言う前に、このミズ・スクールの討論会に少しでもいいから顔を出して下さいね。

（目下部）



図書コーナー

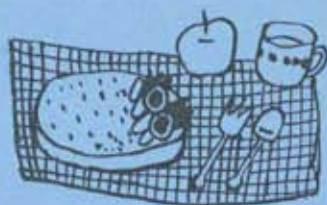


『くるま椅子の歌』（水上勉 中央公論社）
 障害児として生まれた自分の子供と一度は見捨てようとする葛藤をへて、一緒に生きていくために仲間づくりをしていく話ですが、著者自身も障害児の親として別府市「太陽の家」設立等に奔走したという事実の重みが伝わってきます。 推薦者 三郷市

『日本の幼稚園』（上笙一郎・山崎朋子共著 理論社）
 明治・大正・昭和にわたって幼児保育・幼児施設・児童文化などを説き及ぶ語り語られています。毎日出版文化賞受賞作です。

『スペイン子連れ留学』（小西章子 鎌倉書房）
 3人の子持ちの主婦（35歳）が子連れでスペインに留学した時の体験談です。夫を説得し、スペインまで出かけた行動力には共感される方も多いでしょう。（目下部）

かわいそうって
いわないで



保谷市住吉町

私が仕事をしたいという理由で、長男が1年間通い慣れた幼稚園から、我家の隣りにある公立の保育園へ転園しました。

そして今、元気に保育園に通っているのですが、このことに関して、さまざま意見が私の耳に入ってきたのです。

「せっかく通っていたのに、可哀想ねえ」「偉いわね、見栄から幼稚園に入れる親もいるのに。」等々……

でも救われたのは経済的・時間的・立地条件などの理由で「良かったじゃない」と言う意見が一番多かったことでした。現在の幼稚園では、小学校入学準備のために文字の読み書きなどを教えているようです。保育園ではそれが無いというので、幼稚園に転園させる親たちもあるとか。私のような考えは例外なのである。

私は今、息子の通園する様子を見ながら思うのです。今の親は子どもに対して誤解しているのではないだろうか。転園を時は起してやり、欲しい物はすぐ与えてやる、それが子どもを可愛がる姿であると。鍛える場を与

えてやり、種々の体験をさせてやることの方が、本当は必要なのに。親は子どものガードになりきることだけが絶対条件ではないと思うのです。

そんな私も、気弱で内気な息子に酷なことを、と誤る日もありました。でも息子は幼稚園に入園する時のあの意固地を捨て、順応性のある子どもに成長していたのです。

『可愛い児には、旅をさせろ』

一つ一つの経験を通して、何ごとをも乗り越えられるだけの大きな人間になって欲しいと私は願っているのです。(文責・藤元)

集まってみませんか

△新メンバー募集▽

●杉並共同保育グループは参加者4名・子ども4名(2・3歳の男児)と少数であるため、新メンバーを募集しています。子どもの年齢・男女を問いません。会員宮口宅、月・金11時30分から4時まで、昼食は宮口宅で用意し全員同じものを食べます。2人ずつ当番なので各人週一度は自由時間がもてるシステムになっていますが、一方的に預るのも結構です。

杉並区

●多摩地区の会員のみなさんへ

青梅線沿線にお住いの方、新しくグループをつくりませんか。御連絡は左記へ3月末頃までお願いいたします。

△体を動かす会▽

先月号で、載せました小さな体操の会、4月以降も続ける事になりました。

体操といっても汗を流す事が目的ではなく、自分の体に話しかけながら体を整えていくのが目的です。薬や医者に慣らされた体、ちびっこと腰が痛いと思った時も薬を塗布する前に何故そこが痛むのか考えながらこの体操を繰り返しかえして下さい。すぐく、すっきり体が生き返るのを感じる事でしよう。

場所 神宮前区民会館・和室(2階)

国電原宿・地下鉄千代田線明治神宮

下車・えびね工芸店裏

時間 毎月 第1・第2・第3水曜日

会費 大人と子ども合わせて150円位です。

体操を指導してくださるのは、黒田さんです。(矢部)

△働くことの研究グループ▽

スケジュールの都合上、2月は会合ができませんでした。3月以後はもっと頑張りたいと思います。次回会合は次の通り。

3月17日(木) 11時～4時

千駄ヶ谷区民会館(国電原宿駅坂下口) 主に語学関係のこと。



千葉の交流会にて

千葉市天戸町

(検見川グループ)

去る2月19日(土)、交流会が東京を離れてはじめて千葉で開かれました。場所は本八幡駅近くの三輝ビルの6階、大きな窓とカーペット張りの部屋で車座になっていたミーティングです。この日はとっても暖かだったのと土曜の午後ということで仕事を持っている人



の参加もあり、千葉会員が多く、30名位になりました。ある程度集まったところで自己紹介を兼ねて各所属グループの状況説明から始まり、やはり共同保育や、現在の「あんふぁんて」、あるいはこれからの「あんふぁんて」はどうあるべきかとかが中心の話し合いが行なわれたのですが、まず共同保育、及びそれに関連する意見では、

- あんふぁんての共同保育が目ざしているものは、単なる無認可の保育所とは違っている筈である。では一体どういふものを理想としているのか……
- 無認可の保育所が単なる預る場所だけになっている現状への不満。
- 市川市で友人達と無認可で共同保育所をやっている人の場合は、場所の確保(大家さんから苦情がある)、人員の確保、経済的運営の難しさ等多々あるとのこと。あんふぁんての仲間の協力を希望しているという話もありました。
- 求人案内に「保育所完備」とあるものがあるが、そこで託児をする側の仕事を経験している人の報告では「六畳間に0歳児から3歳児位迄10数人を1〜2人で保育にあたる」という様な、かなりひどい状況にあるということだ。
- その他ヘルパー制に関することなども話し合われました。

そして次にあんふぁんてのこと、教育や教科書問題に関して勉強会を持っている柏グループだとか、自然食品や中国物産などがある程度商業ベースにしている市原グループだとか一部にはユニークな活動をしているグループ

もあるが、全体的には低迷気味の所もかなりある様子、今一度考え直してみようということ、これに関する意見としては、

- あんふぁんての仲間としか通じ合えないと思ひこんでしまつて安易にあんふぁんての中へ逃げこんではいないか。原点にもどつて身近な仲間(例えば近所で預りっこをしている人等)とちょっとコミニケーションを持つべきではないか。
- 活動の低迷しているのは、あんふぁんてがまだ会員の中でさへも第一に優先するという魅力ある存在ではないということになるであろう。もっと我々自身が受け身ではなく、自分自身の問題として外へ働きかけることによって、始めて魅力ある存在になるのではないか。
- などという発言が目につきました。
- そして次に男性との関わり合いの問題。一番身近な夫達にもっと育児や家事へ参加してもらふという意見には、皆賛同を示しましたが、現状はかなり悲観的な状態にある人も多く、いかにしたら夫達を引き込んでいけるかという議論に集中した感がありました。
- そしてそれに関することとして、我々の子供達には、男の子、女の子、という区別はまず辨するよりむしろ、男の家事参加に多かれ少なかれ不満を持っている女達の一致した意見でした。
- その他様々の熱のこもった議論続出で、それぞれに得る所のあった会だったと思います。今迄一度もこつこつ種類別の会に参加されていない方、とにかく一度参加してみませんか。これが初参加の私の感想です。

生活公書を考える

卵のはなし

む・むの会

近頃、有精卵がもてはやされているようですが、有精卵とは早い話しがヒヨコに孵（か）える卵のことです。昔は農家の庭先や町なかの庭先でもにわとりが餌をついばみ、毎朝生んでいたものがそれです。有精卵は自然なもののだし、確かにいいものにはちがいないのですが、原理的に作ると大変な資金と設備を必要とし、市場性がうすく（3日程しか日もちがしない、一個が40〜50円もする）、しかも近代栄養学の見地からは無精卵と有精卵との間に栄養価の差はほとんどないそうです。（現在では、山岸会と卵の会が有精卵を作っていますが、数が限られているため入手は困難なようです）

それじゃあ、安くて簡単に手に入るスーパーなどの卵でいいわ、というところに大きな問題があるのです。

スーパー、小売店で売られている卵は無精卵です。ヒヨコに孵えない卵です。オートメ化された孵化場で、さしずめタマゴ製造機のようにされたニワトリは、合成黄卵着色剤や抗生物質、ホルモン剤等々、80種類もある様々な添加物を加えられた飼料を食べさせられ、昼夜の区別をなくされ卵を生みつけます。そしてその卵は熱湯をかけられ、合成洗剤で洗われ、パックづめにされて複雑な流通

機構をくぐって、やっと家庭に届くのです。鮮度も低く、生ではなるべく食べないようになどと呼ばけられる位、安全性がうすいものになっているのです。

成長期の子どもの栄養にとって卵は欠かすことの出来ない重要なものです。入手困難な有精卵に対して無精卵でも、鮮度が高く、安全性を重視しているところで作られたものなら安心して食べることが出来ます。

共同購入センターというところで扱っている卵は、前日に集卵されたものが翌朝には各家庭に届けられています。安全性を重視した自家配合飼料を使い、卵は人工の手を加えずにそのままだけられます。黄色はこんもりとして、生のまま御飯にかけてもコクのあるおいしいさがあり、目玉焼きにしても、おいしいわぁ、というくらいです。以前はなんとなく気味が悪くて生で子どもには食べさせなかつたけれど、今の卵に変えてからは、何もおかしなことはない時は生玉子御飯にしています。他の団体・グループでもより安全で鮮度の高い卵を扱いはじめているところが多くなってきました。みなさんも卵の見直しをしてみませんか。

共同購入センターの卵をほしい方は15名以上とめ買い出来る人です。近所の人10人位あつめて下さい。詳しい事は渡部 田

× × × × × × × × × × × × × × × ×

夜の方がいいです。



卵の鮮度を知る方法には塩水につけてみたり、光をあてて透かしてみたりの方法などがありますが、次のやり方も試してみても下さい。平たくて白いお皿の上に卵を割り落とし、白身の様子を見ると、鮮度の高いものは黄味のすぐまわりの白身の濃度がこくて、ブルンとした感じ。鮮度の低いものは白身が流れて水っぽい感じ。

次は、黄味を指ですくってみます。新鮮なものはラクラクとすくえ、こわれません。古いものはさわたり、器に入れる時にこわれちゃいます。



れんさいドキュメント最終回
女から女へのレポート 妊娠・出産

看護婦さんがいろんな機械みたいなのや、道具をガラガラと引きづってくる。「用意は全部できてますからね」そう言って2人、私の足元で何かガチャガチャやっている。急に痛みがやわらいだ、と思ったらいきみなくなってきた。いきみたいというのはウンコがもうれつに出たくなるのに似ている。体がいきみたがっているのだからと思い、「いきんでいいですか？」と聞くと「まだよ、もう少しガマン」とのこと。体の中からもすごく大きなウンコが出たがっている感じだ。ウンコと力を入れていきんだら、どんなに楽かと思いがらガマンしている。内診をして子宮口が全開したとのこと。「いいわよ力を入れて」と言われていきみ出した。私のメモは5時29分まででおしまい。左手は点滴のために動かさないから、右手で分娩台についている電車のつり皮みたいのを握り、ウンコと力を入れる。当然メモもできないわけだ。ラマーズ法で練習したように、痛みがきたら、大きく深呼吸してから次に息を吸って、そのまま息を止め力を入れる。やり方はずっとウンコをするときに練習してきたからうまくできる。本当に肛門の方に力を入れると、あとで痔になってしまふ人が多い。残り少ない練り歯磨きがきのチューブから、ギーンと押し出すような気持ちで、膣の方に力を入れる。今までひたすら痛みに耐えて、呼吸法だけが気安めだったのが、今度はいきむというところで、実に能動的になれる。いきむと下半身の中で、大きな

かたまりがグググと動く。腰がメリメリと割れるようだ。力を抜くとかたまりがスッと戻る感じ。「さあラストスパートノ」どんなものが出て来るのか期待してしまふ。それまで受身的だったのが、本当に自分の労働で何かを動かすことができるようになると、気持ちに楽になり、急に楽しくなった。万身の力を込めるとよく言うけれど、まさにそんな感じだ。私にこんな力があったのかとびっくりし、感動する。頭も体もすべてが、私そのものがすごいパワーになりつつあった。パワーのかたまりとなって、楽しみながら、何かをうみ出すことができるってステキなことだ。女をやっているって、なんてももしろいんだろかと思った。自分自身がパワーのかたまりになりながら、頭は妙にさえわたり、気持ちに安らいでいた。でも、あんまり力を入れすぎて、フッと気を失う。吸い込まれそうに眠くなる。とても快い眠気だ。するとさきから出たがっている下半身の中のかたまりが「ねえ、出してよ」とさいそくする。「ハイハイただ今」って自分の体の中身と話しながら力を入れる。

「次で出ますよ」私と私の中身との世界に突然看護婦さんの声が飛び込んで来た。いきみ始めてからちょうど1時間たっていた。膣のあたりでパチンパチンと音がする。看護婦さんが何かやっているみたい。「あ、会陰切開された」私には何のことわりもなしに、膣の口をハサミで切られた。膣がもう感じなくなっているから痛くはなかったけれど、ひどいものだ。会陰切開は、うむ方は膣の口が広がるのだから楽にうめるし、つきあう医者や看護婦さんにしてみれば時間短縮ということと便利なやり方だ。大病院ではあたりまえのこととして行われている。でも切られた方は、あとあとまで傷が残ったり、炎症を起したりでやっかいなものになる。私は会陰切開など希望していなかったし、時間がかかってもなるべく自然にうみたかった。「しまったノ」と思ってももうおそい。

次の痛みが来たので気を取り直していきむ。「そのまま、力を入れないでノ」これ以上いきむと膣が裂ける状態だ。ちゅうど子どもの頭が少し出たまま膣の所で止まっている。「イデテデテ」またが裂けそうに痛い。看護婦さんが引っぱり出す。体の中から生暖かいかたまりがニョーと出た。「オンギヤー」「フー」急に楽になった。「やったぜ」ホッとした気持ちと、ひと仕事終えたりうれしさで笑いが込み上げてきた。「どっちですか？」「男の子よ、よかったわね」男だからいいってことはない。私は女がうみたかった。またいきみたくなったので力を入れると、トロと胎盤が出てきた。「ちゅと見せて下さい」目の前に現れたのはグシャグシャでシワシワの赤紫色をしたとても小さな人だった。何やらギヤーギヤーと泣いている。「どうも初めまして、これから仲良くやっていこうね」あいさつもそこそこに、彼は看護婦さんに抱かれて隣の部屋に消えて行った。「ワイイ」ゆるい波のような快い疲れの中で、私は笑っていた。早くみんなに会いたかった。私と生きたことをともにしている、女たちと笑いあいたかった。「ねえ、うみ終わったよ、お待たせ、みんなノ」

つづく

いいたい
ほうだい



東京都世田谷区

即立という言葉が使われ、女も外へ出て働く事が当たり前となってきた。

だが、まてよ、とそう思う。

そこにすごい落とし穴がありそう。

女が働く事、それがイコール男の創りあげてきた労働社会と同じになる事か？又は同じとしたのか？

公害を無限にまきちらし、身体の弱い者、不自由な者、年老いた者、学歴の無い者をはじめ出し、働いているんだ。の一言ですべてが正当化されている現在のシステム。私達もそんなゆとりのないシステムを男女平等といううたい文句につられて担っていかなければならぬのか？少くとも私達は公害の無い社会を望んでいる。ならば女の創り出す労働の世界は公害の無い社会への足がかりの第一歩にならなければならない。現在のシステムの途中で落ちこぼれてきたものを見落してきたものを点検し、後へ続く者としてもう一度見返していくだけの余裕がなければ女の働く事など無意味だと思ふ。それが賃金を得る労働につながるだけでなく、スタートラインで腰をあげ、

どう走り出すべきか考え続けていくエネルギーを持つ事が、今の社会で女だから出来る事なのではないか？経済的自立、そこに〇〇的とあるようにそれのみで自立にはならない。外へ出て働く事がすべてと決めてしまいう前にそれが金になってもならなくても、一労働力というものが、社会をどうにでも動かしていけるだけの力を持っている事をもう一度考え、みる必要があると思う。

地方だより



離れ小島の生活スケッチ

鹿児島県熊毛郡

口永良部島の冬は独特の気候で、曇天が急に晴れてキラキラしてるかと思うと、サーッと

といった感じで、雨霰が降ってくる。

それを一日中繰り返した天気なのです。

あまり良く晴れてるもんだから、はりきって洗濯をしたり、ふとんを干したりして、終ったとたんに、ザーッとやられ、泣きつづ

の時も度々です。

子どもは空模様などおかまいなしで、元気に泥んこ遊び、南とは言え、寒い北風が小さな

手を、赤くつめたたくしていきます。思う様には動いてくれない手で、泥んこに色々なものを混ぜ合わせ、御飯の仕度におおわらわ！



彼等は生き生きしています。

夫はジャガ芋を作るための畑を耕しておりま

す。(ジャガ芋はやせた土地の方が良く出来る

そうです)

私は炬燵に足をなげ込んで、FMなどを聞き

ながら、手紙を書いたり、本を読んだりして

いるのですが、今、嫌な事があって、体の力

を悪魔にでも、持っていかれそう。田舎はど

うもカラッとした明るさがあり見られませ

ん。何かと言うと周りの人間が、しつこくま

つわりつき、ほっといてくれないのです。

常識をわきまえた人が多く、私にはシン

ドイ事度々です。離れ小島の純朴さを想像し

たのは私の早合点だったのでしょうか。

しかし、ここで逃げ出す訳にはゆかないと、

頑張っております。(文責・藤元)

スタッフだより

春一番の風に乘せて、スタッフの騒々しい近況を送ります。

佐久間・2月中旬の連休にスキーに行き、転倒して右足を骨折、白いギブスが痛々しく目に映ります。現地の病院に一週間入院して現在、自宅療養中。彼女の留守中、一番淋しい想いをしたのは子ども達や夫だろうが、彼女の隣上に住む羽鳥さんもその淋しさの余波を受け、やがら就眠してしまつたのです。前から捜していた印刷関係の会社に勤め、すでに経験ズミの機械と違うとかで、かなり苦労しているようです。

黒坂・下館の実家に帰っておもちや屋をやることが本決まりになり、その準備と義兄の看病が重なって、下館と豊島五丁目団地を行ったり来たり、タフな彼女とはいえ、風邪をひいて鼻声がぬけない状態。

野口・日頃の無謀な生活がたつたて、ついに腎炎で倒れ、医師より、のんびりだらりの生活をせよと申し渡されました。おかげで今回の情報誌の編集に多少の難を渡したようです。

矢部・渡部・井の頭グループが区報で会員を募った結果、37名連絡がありそのグループ分けに嬉しい悲鳴をあげています。下部・保育園卒園・入園期を迎え、保護者会関係行事、対市交渉(予算獲得)などで多忙な日々を送っています。(梶本)

事務局から

☆今回は新しいフェイスシートを同封しました。2年ぶりになりますネ。大部環境が変わったのではないのでしょうか。前のものに抵抗感のあった人も今回は是非書いて欲しいのです。これからの活動の土台となるものです。なるべく詳しくお願いします。

☆次回には、近くの人たちなど不特定多数へ向けても配れるような、前回同封したグリーン色用紙の趣意書をもっと簡単にとっつきやすくなった感じのチラシを同封したいと思っています。

☆前回同封した共同保育・ヘルパー制のアンケートの返送がまだの方、早く送って下さい。次号から本格的に共同保育・ヘルパー制の問題点整理、検討に入りたいと思います。

☆振込用紙が同封されている方が多いと思います。10月から半年の3月でできる方が多いのです。51年10月以前の分、つまり前期分のある方は、「前期ヨリ繰越」というハンコで金額が明示してあります。皆さま、よろしく☆入会申し込みは切手300円分を同封して、氏名・住所・郵便番号・電話番号を書いて封書をお願いします。あて先・

☆参加費の振込先・東京あふふんての会。備考欄に必ずしも会員番号を記入して、郵便局で振込んで下さい。(古知)

スケジュールメモ

☆3月から毎月第1・第2・第3・水曜日子ども達と一緒に体を動かしてみよう。PM1時半〜PM4時 神宮前区民会館にて

連絡先 天郷

☆3月17日(木)働くことの研究グループ PM1時〜PM4時 千駄ヶ谷区民会館

連絡先 事務局まで

☆3月30日(水)ミズ・スクール PM1時半〜PM4時 千駄ヶ谷区民会館

連絡先 事務局まで

連絡先 事務局まで(3月23日まで)

編集部から

スタッフだよりでかいたように、猫の手もかりたいような忙しさの中で、会報をつくりました。ミズ・スクール特集の資料にとこの一カ月さまざまな本を読み頭の中も混乱しています。会報担当の野口さんのダウンはきびしく、古知・渡部・山岡・矢部の四人が臨時の担当になりました。イラストとも矢部

